

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大詫間小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	94.1%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	94.1%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	88.2%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	94.1%	84.9%

「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。授業で話し合い活動を通じた協働的な学びをよく行っています。

「将来の夢や目標を持っている。」の項目は、全国平均よりも高い結果が出ています。今後も将来の夢や目標について考える機会を設けていくことを大切にしていきます。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.9%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	0.0%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	52.9%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	29.4%	27.4%
「30分より少ない」	5.9%	12.9%
「全くしない」	5.9%	5.7%

家庭学習については「1時間以上、2時間より少ない」児童が約半数でした。学年の目標である70分程度の家庭学習時間ができているようです。目標時間に達成できていない児童や全くしない児童が全体の4割程度います。家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の大切さを児童と保護者に伝え、家庭学習の習慣化と自主的な学習を進めていきます。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

- 主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重(自由の相互承認)」「創造」を育てていきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、主体的、対話的で深い学びの視点で、日々授業改善を行って授業づくりをしています。
- 「自律」である自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育むため、課題解決のために自分に合う学び方やペースを選択できるように取り組みます。
- 失敗は、成長につながるチャンスとして捉えています。対話を通して、互いを知り、認め合う力を育てていきます。

【ご家庭では】

- 「尊重」の力を育むためには、お子さんが困っているときには、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたは どうしたい？③私に何かできることはある？）で関わるのが大切です。
- 「大詫間小家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。



かていがくしゅう ないよう りょう
家庭学習の内容と量のめやす



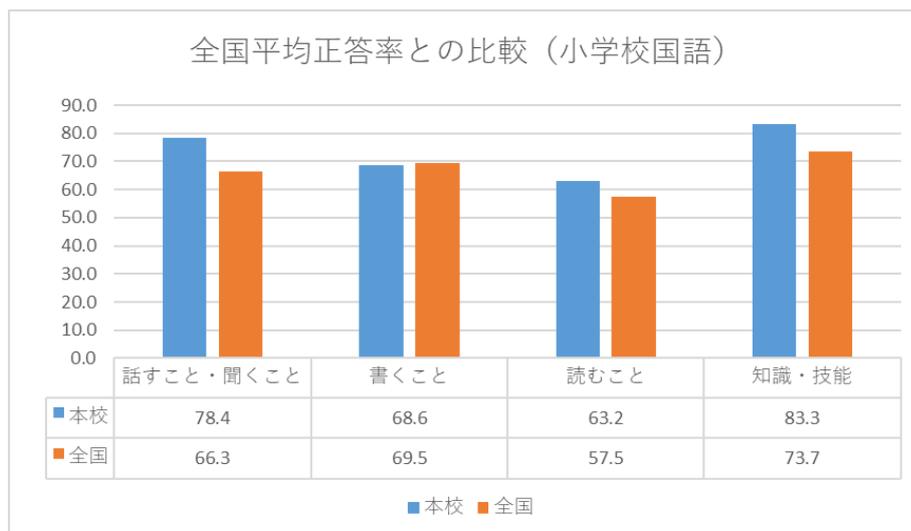
佐賀市立大詫間小学校

かかる時間	1・2年	3・4年	5・6学年
5分	音どく (国語のきょうかしよ・音どく集など)	音読 (国語の教科書・音読集など)	音読 (国語の教科書・音読集など)
15分	ひらがな、かたかなのれんしゅう かん字のれんしゅう (84字)	漢字1ページ (84～100字)	漢字1ページ (100～100字以上)
10分	プリント けいさんドリル プラス学しゅう 学こうのかだいをきちんとする	プリント 計算ドリル 学校の課題をきちんとする	プリント 計算ドリル
15分	1・2年の学しゅう時かんのめやす 30分～40分	プラス学習 国語・社会・算数・理科等 (自学ノート) (e-ライブラリ・プヨリなど) 自分で課題を見つけて学習する	プラス学習 国語・社会・算数・理科・外国語等 (自学ノート) (e-ライブラリ・プヨリなど)
15分		3・4年の学習時間のめやす 40分～50分	5・6年の学習時間のめやす 60分～70分
	どくしよ	読書	読書



先生が出した課題以外にも、進んで学習に取り組みましょう。自分の課題を見つけて、自学ノートやタブレットパソコンを使って学習しよう。

2 国語



(1) 結果

本校の全体の平均正答率は74%で全国の66.8%を上回っています。3つの項目は全国平均よりも高い結果でした。「書くこと」は、全国平均よりも少し低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が全国平均よりも10.4ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率55.9%は、全国平均正答率58.8%を下回り、苦手になっている児童が多くいます。主体的な学びの視点で授業改善を図り、児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

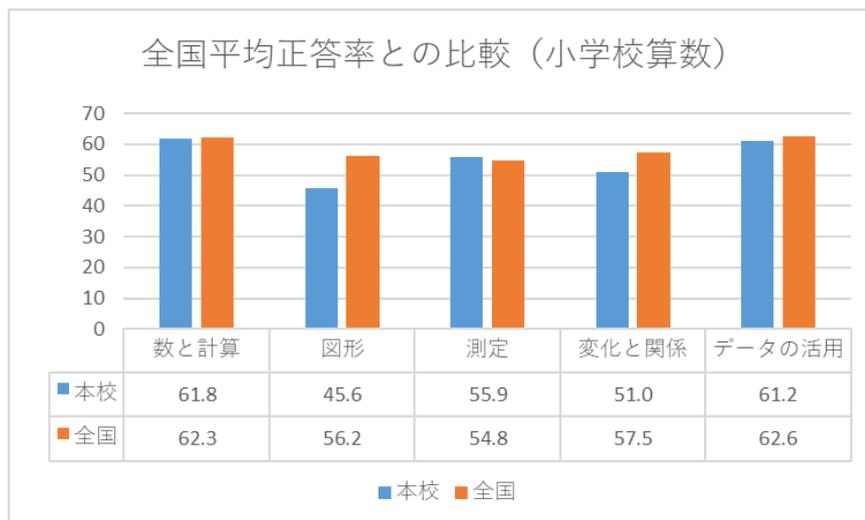
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら文章を書いたり、ふり返りを通して自分の考えをまとめたりして、書く力を伸ばしていきます。また、インタビューや案内をするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。
- 自主学习として、家庭での出来事を絵日記や日記に書いたり、ニュースやテレビで見て考えたことや家庭で話したことをノートにまとめたりすることで書く力を伸ばすことにつながります。

3 算 数



(1) 結 果

全体の正答率は本校54%、全国58%と全国平均を下回る結果でした。特に「図形」「変化と関係」の領域で全国平均を下回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」の領域の、小数の足し算、異分母分数の足し算などの問題は全国の正答率を上回っており、繰り返しの計算練習で正しい計算技能が身に付いていると捉えています。「B 図形」の領域の、方眼上の五つの図形の中から三つの台形を選ぶ問題で、正答率が全国平均を下回っていました。今後、図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考え、説明することができるようにすることが重要であると捉えています。また、「C 変化と関係」の領域の、「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す数を選択肢から選ぶ問題で、全国平均を下回っていました。割合や倍の意味を、図や数直線で表して説明できるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

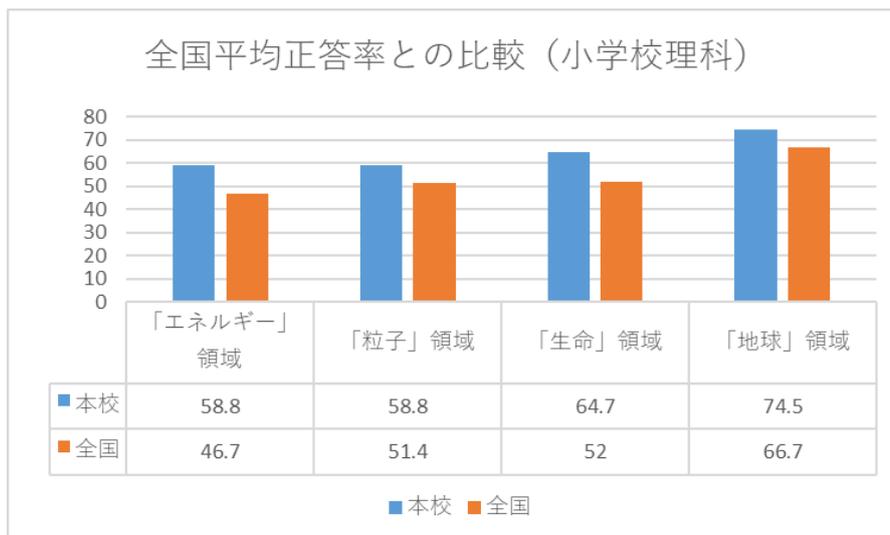
【学校では】

- 問題文の内容を確実に捉えることができるようにするために、問題文をよく読んで大切な言葉や数字に線を引いたり囲んだりすることに取り組んでいきます。
- 様々な見方や考え方ができるように、話し合う活動を充実させていきます。また、自分の考えを図や式、言葉を使って論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノート、プリント、ドリルなど、日々の指導の中での個々のつまづきを早期に見つけ、指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算、%や割引などの割合」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」「ドライブでの時速などの速さ」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理科



(1) 結果

本校の全体平均正答率は66%、全国の全体平均正答率は 57.1%で全国平均を上回る結果でした。また、領域別に見ると、「エネルギー」領域と「生命」領域の問題で全国平均をより上回る結果になりました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「エネルギー」領域の身の回りの金属の性質や電気の回路、乾電池のつなぎ方などの「知識・技能観点」の問題の正答率が全国平均正答率を上回っていました。また、「生命」領域の植物に関する問題では、顕微鏡の操作の仕方や実験をする際の条件を制御した解決の方法を発想することを選ぶ問題の正答率も全国平均正答率を上回っていました。これらの結果は、授業で児童が実際に機器や道具を使用して実験や観察を行っていることで、技能や知識が身に付いていたと捉えています。実験の結果を基に結論を導いた理由を記述する問題では、理由として述べるべき根拠の2つの内、1つしか述べていないことで全国平均正答率を下回っていました。問題形式の「記述式」の問題は、全国平均を下回っており課題が見られました。日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書き、説明する機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。